
くそばばあめが

ごはんライス

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

くそばあめが

【Nコード】

N18620

【作者名】

ごほんライス

【あらすじ】

エッセイだよー。エッセイです。エッセイなり。

松屋のくそばばあに腹が立った。威圧的に「生卵？半熟？」と大声で迫ってきやがったのだ。

正直、打ち殺したかった。しかし、社会人なのでできない。なんぼ忙しいからって客に威圧的な態度をとっていいのか！！

実は、つい数日前に、勤務先のスーパーで電話でお客様にむちゃくちゃ怒鳴られている。レジで弁当を倒してしまい、忙しさのあまり謝らなかつたのだ。悪気はないが、お客様は不愉快である。

オレは低賃金重労働を課す企業に責任があると考えたが、社会人なので謝りに謝った。誰にも文句が言えず、涙が出てきた。低賃金重労働で接客レベルが低下するのは事実やねん。お客様には申し訳ないが、オレのせいちゃうねん。

松屋のくそばばあ、ぶち殺してえ！！！

帰り際「ありがとうございます！」と言いやがるのも実に腹が立つ。思えば、オレも弁当を倒したお客様に「ありがとうございます」と言った。

感謝の言葉とは、心がないと無意味だなあと痛感しましたよ。とほほほほ。まあぐだぐだ言い訳する前にオレはお客さまの悲しみを知るべきである。今は企業に対する怒りが激しすぎて、お客様の悲しみを無視してる。

さて、話変わり、処女ギャグ長編「ひつぷぼつぷ武将」の再考。

野生時代フロンティア文学賞で大賞とれんわなあ、と思うのは何も自作がくそだからだと自虐的になってるわけでない。主催の角川がフジテレビと提携してるため、明らかに映画化を狙ってるのだ。ひつぷの通り魔のシーンは絶対に映像化ができない。

なんとも残念である。三百万円逃した。

とはいえ、いい面もあるかなあ。

映像化が無理ということは、本を読むしかないわけである。すると、本が売れる。確かに映画だけ観て本読まんでパターンもあるものね。ただ、聖さんが指摘する通り、通り魔被害者の遺族を不愉快にさすという問題がある。これはうまく説明できない。というのもも現段階でわしも遺族なら、ひつぶを嫌悪するなあと考えるからだ。

まあ、オレが読者ならひつぶやめるとまでは言わないが、身内が被害にあつた場合、読まない。

まあ身内が通り魔にあつた可能性は少ないので仮定の話が難しいが、作家のわしは、もし友達や親が通り魔に巻き込まれたら、ひつぶをサイトなら非公開にし、書籍なら絶版にする。

人間としては正しいのかもしれないが、表現者としては甘いかなあという気もする。ひつぶを読んで通り魔をやめたという読者もいるはずである。そういう読者の道を奪ってしまう。

今後の課題。

さて、最後に、ジョン・レノンのお話。

ジョン・レノンはビートルズ時代「ストロベリー・フィールズ・フオーエバー」という曲を百テイク以上録音している。

最終的に決定できず、プロデューサーに任せ、別々のテイクをつなげてひとつにしてリリースした。

正直、テイク1と決定テイク（百何テイクと百何テイクをつなげたもの）は明らかに決定テイクの方が深くて渋くて奥行きがあつてすばらしい。

まあテイク1もかわいくて好きだけど。

練れば練るほどよいものができる例。

しかし、ソロ時代の「インスタント・カメラ」。これは着想から作詞作曲、録音、リリースまで一週間しか経ってない。一発勝負のすさまじいテンションが最高。これをぐだぐだいじっていたら、だるくなっていただろう。「よっしゃ！ミュージシャン至急集合だ！」

と叫ぶレノンのせつかちさがいい風に作用した。「ええええ。いま深夜の四時ですよ」「うるせえ！早く来い！！！」
ただ、「インスタント・カーマ」を初めて知ったのは、別のミュージシャンが同曲をカバーして演奏してる映像である。
震えて感動した。まあだから楽曲がいいのかな。
確かに「インスタント・カーマ」の百テイク目も聴いてみたい気がするね。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1862o/>

くそばあめが

2010年10月11日23時52分発行